
stopper ~ 転生者の戦い ~

追憶の俺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

stopper 転生者の戦い

【Nコード】

N5830Z

【作者名】

追憶の俺

【あらすじ】

10000ユニーク突破記念！

死んでしまった一人の少年。

彼は天使と共に「リリカルなのは」の世界へ行く……世界の破壊を止める為に……stopper 転生者の戦い 始まります

原作ブレイクが好きな方は「もどる」推奨します

prologue

……俺は死んだ

何故死んだかって？それは普通に学校の帰り道、トラックが突っ込んできて普通に死んだ。かわすなんてできる訳が無い。恐怖して動けなかったからさ

ところが今、俺は真っ白な空間にいる。ここが死者の国、すなわち天国だとしたら「どんだけ寂しげなところなんだよ」と思う

「おや、また死人が出たか」

何所からか声が聞こえる。てかまた死人って……言い方がなあ

「ああ……すまない」

「うおっ!？」

突然黒い服を着た歳二十代半に見える長身の男が隣に現れる

「ろつとお！驚かせてしまったようだな」

「そりや突然横から出てきたら驚くわっ!？」

それにしても何なんだコイツ……あれ、どっかで見た様な顔だな

……
ひょっとして……？

「まあ君の考え方は間違っていないんじゃないかな。私はルシフェル、神に仕える天使だ。ようこそ天界へ」

え、今「天界」って……

「ああ、『天界』さ」

「へえ……此処が天界……てか心読むなし」

「ふふつ、天使だからといって、侮ってもらっちゃあ困るね」

……下手したら発言が変体にしか思えないんだが大丈夫なのか？

「大丈夫だ、問題無い」

……大問題だな、こりゃ……

「それで、君はこれからどうするんだ？このまま死者の国に逝くか、『転生者』として世界を破壊するか……」

二つ目の言葉でルシフェルの顔が不機嫌そうになっているのが俺には分かった

「世界を……破壊……？」

「ああ……そうだ。『転生者』は私利私欲の為人知を超えた力で

世界を荒らし、自分の思いのままに世界を変える……最近こうゆう自己中心的な奴等が増えてね。天界でも問題になっているんだよ」

「!？」

俺は驚愕した

そんな奴等が世界を破壊……しかも自分の為に……

俺は腹が立つて自分の拳を握り閉める

それを見たルシフェルは驚いたような顔をしていた……そんなに驚いたのが可笑的いか？

「……ああすまない。ちょっと驚いてしまつてね。実を言うと君も転生して世界を破壊すると思つていた。こんな私を、許して欲しい」

「いや……ルシフェルは何も悪くないよ。俺は……その自分勝手な転生者に……何もできない自分に腹を立てているんだよ……！」

「……なるほど、君は少し変わっているようだね」

「……そうか？」

「ああ……とつてもね……なつてみないか？」

stopper《止める者》に……」

……ん？すつぱー？栓になれと？

「まあそんなところか。君には『世界の栓』になつて欲しい。こんなヒトを見たのは私も久しぶりだからね……君には『魔法少女リリカルなのは』の世界に行つて、転生者の暴走を止めてもらいたい」

『リリカルなのは』……テンプレだな……

「転生者の暴走を止める……か……まあ出来るとこまでやってみるか」

「ふふつ、有り難う。では君には世界を護るための力を授けよう……」

ルシフェルは指を鳴らすと、三種の武器が現れる

まさか『神パッチン』を間近で見れるとはな……

「……そういえば、君の名前を聞いてなかったな」

「ああ、そうだな。俺の名前は……」

あきはら
秋原 一途さ

これが、俺とルシフェルの出会いの始まりだった

「これはヒトには決して作ることのできない神の知恵、いや……武器か」

「これが……俺のチカラ……」

次回、一途の『チカラ』
T
A
K
E
O
F

prologue (後書き)

はい、遂に投稿しました！！次回もお楽しみに！！

p r o l o g u e ? 一途の『チカラ』(前書き)

原作まで時間がかかりそう。どうぞ

prologue? 一途の『チカラ』

「……………」

「これは神が造り出した知恵……いや、武器か」

俺は言葉を失った。なんかすげえ『神聖』な感じがする

「君には最初に『アーチ』の説明をしよう」

と、弓のような武器に指をさす

「『アーチ』、人類が決して辿り着く事の出来ない神の叡智として神が我々に与えられたものだ。先ずは広げてみるか」

と、真ん中の部分が伸びる

「ふふっ、見ての通り継ぎ目すらない美しいフォルムだろう? 14000年前にアイツがこの武器をよく使っていたね」

「……アイツ?」

「そう、アイツの名前は『イーノック』だった。まあ良い奴だったよ」

良い奴だったって……死亡フラ……

「心配するな、アイツは今でも生きているよ。説明の続きをしよう……神はこれを爪楊枝に使っていると噂を聞くが……私はそんな

ところは見た事もないし、信じがたいね」

あ、俺もそう思った。爪楊枝つてなあ……なんだか使い辛そう

いつの間にか無意識に『アーチ』に触れようとしたその時

バチィっ!?

「うおっ!？」

突然の出来事だったので手を引つ込めてしまう

「ろつと！驚いたか？」

「ルシフェルも驚いているじゃんよ」

「ははっ、これにはなかなか慣れないからね。これは人が言う電気でもレーザーでもない。いわば神のみが造り出せるエネルギー体だ。気を付けろ、触れると一瞬で浄化されてしまうぞ」

おお……浄化なんてしたら元も子もないからな……

「これは君にやろう。上手く使いこなせよ」

「！良いのか?……いや、有り難う、ルシフェル」

「ふふっ、そろそろ魔力の方も与えないとね。タカト、手を出し

てっちゃん?」

ルシフェルの言うとおりに手を差し出す

「……………この者に……………世界を守護する『チカラ』を……………」

すると突然俺の手……………いや、体全体が青白く輝く!!

「な!?!」

「それが、君の『チカラ』だ」

「これが……………俺の『チカラ』……………!」

「これが人間界に繋がる扉だ」

目の前に在るのはよく解らない字が刻まれた巨大な扉……………でけえ

「……………開け」

突然、扉が開いたので俺は下がる

「さ、行こうか」

「え、ルシフェルも一緒に……ちょ、腕引つ張……あああああ
ああああああああああああ………」

俺は再び見る地上へと降りた……

「此処が『リリカルなのは』の世界」

「ふっ、また面白いことに……なりそうだな」

次回、『出撃』 TAKE OF

prologue? 一途の『チカラ』（後書き）

はい、遂に『リリカルなのは』の世界に来ました！

次回もお楽しみにっ

人物紹介だが、大丈夫か？（前書き）

短いです。どうぞっ

人物紹介だが、大丈夫か？

秋原 あきはら たかと 一途 享年15歳

容姿は茶髪、茶眼と普通

stopper《止める者》

神のミス……ではなく、普通にトラックに撥ねられ死亡

『リリカルなのは』の世界に往き、転生者の暴走を止める為に戦う

ルシフェル 年齢不詳

熾天使 セラフィム

『El shaddai』に登場するルシフェルと同一人物

一途を『リリカルなのは』の世界へと導いた神の使い。stopper《止める者》の統率者

以後、一途を影でサポートするようになる

年齢は不明だが、天地創造の頃から生きているらしい。時間を自由自在に操る事が可能

人物紹介だが、大丈夫か？（後書き）

現時点ではこんな物ですかね。それでわっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5830z/>

stopper ~ 転生者の戦い ~

2011年12月20日16時59分発行